

第7回青森県民駅伝競走大会レースの概要

第1区（八甲田丸～フェリーターミナル：5.495 km 一般・高校男子）

この日の青森市は、曇り空、最高気温22.2度、心配された雨も降らず、選手たちにとってはまずまずのコンディションとなった。

本年は、青森県スポーツ立県宣言を記念した「車いすロードレース」が県民駅伝のスタートを前に、第1区の八甲田丸前～フェリー埠頭間で行われ、5人の選手がデモンストレーション走行を披露した。

木村守男大会長（県知事）の号砲とともに、正午、緑豊かな青森県を象徴した黄緑色のタスキを肩に掛けた67市町村の第1区走者が一斉にスタートした。

スタート後、東北総体1万メートル競技で第3位の記録を誇る三戸町・中山広光選手が序盤からレースを引っ張り、柳町通りにさしかかる頃から10名の第1集団を形成していたが、ベイブリッジの上り坂から徐々にこの集団がばらつき始めていった。

後半のベイブリッジを下る頃、先頭を走る三戸町・中山選手に大鰐町・花田和幸選手が食らいつき、激しいデッドヒートを展開したが、中山選手が振り切って約50メートル差でタスキをつないだ。

第2区（フェリーターミナル～本町三丁目（旧聖徳公園）：3.2 km 中学生男子）

2位でタスキをつないだ大鰐町・石郷倫史選手がトップを走る三戸町・竹野治之選手に500メートル付近で追い抜き、徐々に差を広げていった。また、この時点で3位の青森市と80メートル程の差が開いていた。

後半のベイブリッジの坂を下る頃、東北町・金田浩季選手が3位の青森市をとらえ、3位に浮上し、2位を走る三戸町・竹野選手との差を徐々に縮めていった。

1位を走る大鰐町・石郷選手は終始快調なペースでレースを運び、2位と約20秒差をつけてタスキをつないだ。

第3区（本町三丁目（旧聖徳公園）～合浦公園：2.9 km 女子）

1位でタスキを受けた大鰐町・築館みどり選手は、この区間で8分46秒の最高記録保持者で、力強い走りを見せていよいよ独走態勢かと思われた。

しかし、3位でタスキを受けた東北町・野田頭美穂選手が2位の三戸町・伊達奈津子選手をあっさりとらえて2位に躍り出ると、1位の大鰐町との約100メートル差を徐々に縮め、後半のラストスパートでついに追いつき大鰐町と並んで第4区走者につなぐすばらしい走りを見せた。

第4区（合浦公園～野内：4.0 km 一般・高校男子）

ほぼ同時にトップでタスキを受けた東北町・山田秀逸選手と大鰐町・植田善久選手との激しい先頭争いが行われ、この2人が抜き出たレース展開となった。

東北町・山田選手は前半からハイスピードで大鰐町・植田選手を突き放しにかかるが、大鰐町・植田選手がしっかりと先頭との距離を保ち、後半の3.25キロメートル付近、ラストスパートで先頭の東北町・山田選手を追い抜き、約20メートル差をつけてタスキをつないだ。

また、3位の八戸市・赤間俊勝選手と4位の青森市・岩瀬真選手とのデッドヒートも繰り広げられ、この区間は逃げる町の部のチームを市の部が追う形となった。

また、先頭走者から10分以上遅れたチームの繰り上げスタートが実施された。

第5区（野内～諏訪沢：5.3 km 一般・高校男子）

トップの大鰐町・中島尚選手と、そのすぐ後を追った東北町・向井覚選手が激しい先頭争いを行った。

前半、双方とも相手の様子を窺いながら併走していたが、中盤から後半まで抜きつ抜かれつのデッドヒートを展開して多くの観戦者を興奮させ、第6区走者へ僅差で大鰐町がトップでタスキをつないだ。

また、トップグループと47秒差でほぼ同時にタスキをつないだ八戸市・佐々木勝則選手と青森市・奈良岡慎哉選手との3位争いも見どころとなり、青森市・奈良岡選手が20秒差をつけて八戸市・佐々木選手を振り切り、3位でタスキをつないだ。

第6区（諏訪沢～戸山団地：5.4 km 一般・高校男子）

この区間の記録保持者である東北町・中山大輔選手が2位でタスキを受けると、1位を走る大鰐町・山口純矢選手にわずか400メートル地点で追いついた。

大きなストライド走法の東北町・中山選手とピッチ走法の大鰐町・山口選手と互いにレースの駆け引きが行われた。

中盤以降、東北町・中山選手がアップダウンの下り坂を利用し、大鰐町・中山選手を突き放しにかかり、徐々に2位との差を15メートルに広げていった。

また、3位争いをしていた八戸市・本田達也選手と青森市・佐々木豊見選手は僅差で第7区走者に託した。

また、5位でタスキを受けたむつ市・舩木和寿選手が激しい追い上げを見せ、中継ライン寸前には3位の八戸市、4位青森市を目前にとらえ3位争いに食い込んできた。

第7区（戸山団地～幸畑：3.7 km 女子）

この区間は、比較的上りのきついコースであり、各チームともエース級の女子選手をエントリーしている。

2位と100メートル程の差で独走態勢となった東北町・石文一十美選手は序盤から快調なレース運びをし、中盤までは2位の大鰐町・永井彩子選手をなかなか寄せ付けなかったが、後半、大鰐町・永井選手が懸命の力走を見せ、残り1キロメートル付近ではその差を60メートルぐらいまで縮めていた。

3位の八戸市・根城早織選手、4位の青森市・菊池美穂選手も必死にトップランナーを追うが、なかなかその差200メートルを縮めることが難しかった。

第8区（幸畑～流通団地入口：5.2 km 一般・高校男子）

アップダウンの傾斜が最もきつい難コースである。

本大会の選手宣誓を務めた東北町・大島穰選手が1位でタスキを受け取り、すぐその後を6秒差で大鰐町・森山雄一朗選手が追い、ともに力強く安定した走りを見せた。

その一方でこのコースを知り尽くしている4位の青森市・沢田勝治選手は前半から飛ばし、前を走る八戸市・風張清志選手を追い抜き、3位に浮上すると、さらに大鰐町・森山選手に徐々にせまり、最後はわずか3秒差にまで縮めてタスキをつないだ。

この時、1位と2位の差は60メートル程でレースの行方がいよいよ分からなくなってきた。

第9区（流通団地入口～細越：3.2 km 40歳以上男子）

前半600メートル付近で3位の青森市・松田勝選手は第2回大会以来の区間記録を更新する快調なペースで2位の大鰐町・渡辺時則選手を追い抜き、さらにトップを走る東北町・澤居勝義選手との差をぐんぐん縮めていった。

中盤の1.75キロメートル付近でトップの東北町・澤居選手をとらえると、そこからさらにペースを上げて一気に引き離しを図った。

最終区間を前に優勝経験を持つ青森市と東北町、初優勝をねらう大鰐町、この3者での優勝争いを窺わせ、その行方は最後まで分からないまさに白熱したレース展開となった。

第 10 区（細越～県陸上競技場：3.8 km 中学生男子）

第 1 区から 9 人のランナーの熱い思いを 1 本のタスキに託し、いよいよ最終ランナーへつなく。

優勝への大きなプレッシャーを背負って青森市・山内敬裕選手がトップを走る。

それを 26 秒差で 2 位の東北町・江刺家洋三選手、46 秒差で 3 位の大鰐町・水木圭選手がそれぞれ逆転優勝への期待を胸に懸命に追いかける。

青森市・山内選手は終始マイペースを保ち、落ち着いた走りを見せ、後半の 2.4 キロメートル付近では東北町・江刺家選手に約 50 メートル差まで縮められたものの、幾度か後ろを振り返りながらの冷静な走りでそのまま逃げ切ってゴールした。

市の部では青森市が三連覇、次いで八戸市が第 2 位、むつ市が第 3 位に入賞した。

町の部では、序盤から終始積極的なレース展開を見せた東北町と大鰐町が激しい競り合いの末、東北町が逃げ切り堂々の五連覇を達成し、次いで大鰐町が第 2 位、野辺地町が第 3 位に入賞した。

村の部では、六ヶ所村が二年ぶりに王座に返り咲き、次いで福地村が第 2 位、南郷村が第 3 位に入賞した。